

群 教 七	G01 - 03
	平26.254集
	国語 - 中

身に付けた力が社会生活で役立つ 実感を持てる生徒の育成

— 単元を貫く言語活動に「実の場」を設定して —

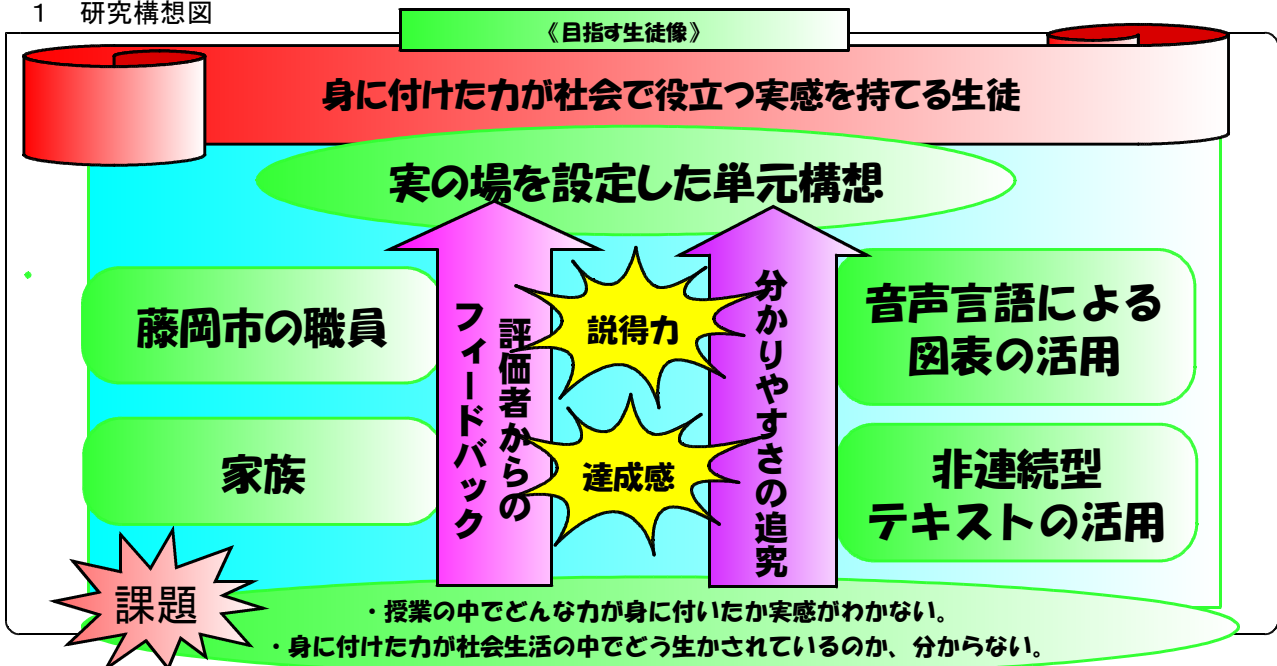
特別研修員 庄山 武

I 研究テーマ設定の理由

国語科の目標は社会生活に生きて働く言語能力を身に付けることにある。毎日の授業の中で、言語能力を向上させる学習は行っているものの、その上達や進歩が客観的に見えづらい。また、生徒も「その力がどう役立つのか」捉えにくく、達成感や充実感を得ることが難しい現状である。そこで、授業で身に付けた力が実際の社会生活の中で役に立つことを実感させる学習活動が必要であると考えた。日々の授業の中で身に付けた言語能力を、実際の社会生活の中で発揮できる場があれば、その必要性を生徒自身が実感できる。また、社会の中で評価されることによって、生徒はわくわくした気持ちで学習に取り組み、より充実感や達成感を味わうことができるのではないかと考えた。「日々の授業で身に付けた言語能力を実際の社会生活の中で生かす場」及び、単元を貫く言語活動のゴールを「実の場」と定義し、実践させることで生徒の意欲を喚起し、授業で身に付けた力が社会で役立つ実感を持つことができるであろうと考え本テーマを設定した。

II 研究内容

1 研究構想図



2 授業改善に向けた手立て

(1) 「実の場」を設定した単元構想

国語科の単元構想において、単元を貫く言語活動のゴールに「実の場」を設定する。このことにより、目的意識、相手意識が明確になり、生徒は国語の学習に意欲的に取り組むであろうと考える。また、社会で役立つ言語能力の必要性に気付かせ、それを習得できる学習活動を工夫する。本研究において、実践1では非連続型テキストの活用、実践2では音声言語による図表の活用を通し説得力に視点を当てた授業実践を行うことで、社会で役立つ言語能力の習得を目指す。さらに、教員以外の評価者からのフィードバックにより、身に付けた力が社会で役立つ実感を持たせ、達成感を味わわせる。

(2) 実践1「修学旅行新聞を作る～修学旅行での感動を家族に伝える～」(1学期6月)

- 実の場 : 修学旅行新聞を作り、修学旅行での感動を家族に伝える
- 相手意識 : 家族
- 目的意識 : 修学旅行での感動や楽しさを伝える
- 手立て : 非連続型テキストの活用
(記事に図や写真、パンフレットなどを入れて説得力を持たせ分かりやすく伝える)
- 評価者 : 家族(「修学旅行新聞評価シート」)

生徒は、実の場を設定したことで、意欲的に学習に取り組んだ。東大寺の大きさに感激した生徒は、東大寺と南大門の仁王像の大きさを図を使って説明したり、二条城のウグイス張りに興味を持った生徒は、その構造を図を使って説明するなど図や写真などを活用することで相手に分かりやすく伝えようという意識できた。そして、修学旅行新聞評価シートに家族から温かい評価をもらうことで、達成感を味わうことができた。しかし、身近な存在である家族からの評価であったため、身に付けた力が社会に役立つという実感は弱かった。そこで、伝える相手を自分から遠い存在の大人とする「実の場」を設定し、身に付けた力が社会に役立つという実感を更に持たせようと実践2を行った。

(3) 実践2「藤岡市を元気にするプロジェクトを提案しよう!!」

～構成の工夫や資料を活用した説得力のある発表を通して～(2学期10月)

- 実の場 : 藤岡市職員の前で藤岡市を活性化するアイデアをプレゼンテーションで発表する
- 相手意識 : 藤岡市役所職員
- 目的意識 : 藤岡市が活性化するアイデアを考え伝える
- 手立て : 音声言語による図表の活用・構成の工夫(プレゼンテーションの中に写真や図、グラフなどを工夫して入れ説得力を持たせ分かりやすく伝える)
- 評価者 : 藤岡市役所職員(感想、コメント)

生徒は、学校や家庭から離れた存在の大人に向けてプレゼンテーションを行うという実の場を設定したことで、意欲的に学習に取り組んだ。また、モデルプレゼンテーションで自分なりの構成を考えた。交流の場では、資料活用の工夫が相手の心をつかむこと、説得力を持たせるためには、構成を工夫することが重要であることを学んだ。さらに、藤岡市役所職員に向けて実際にプレゼンテーションを行い、評価していただいたことで、身に付いた力が社会に役立つという実感を持った。

Ⅲ 研究のまとめ

1 成果

「実の場」を設定し、導入で「相手意識」「目的意識」、そして目指すゴールをイメージさせたことで、生徒は意欲的に学習に取り組んだ。また、説得力を持たせるためには、写真や図、パンフレットなどの資料を活用することや構成を工夫することが重要であることを学び、社会に役立つ言語能力を意識することができた。さらに、家族や市役所職員から評価していただくことで身に付けた力が役立つことを実感できた。これらのことから、社会で役立つ言語能力の習得を実感できる生徒が育成できたと言える。

2 課題

「実の場」のみに意識が偏ってしまった生徒も見られた。単元においてどのような力を身に付けるのかを教師だけではなく、生徒にも常に意識させることが必要であった。また評価者によるフィードバックまで授業内で行ったので、年間を通しての計画的な時数管理が必要であった。

3 提言

「実の場」を設定し、国語科で身に付ける力を意識した学習は、生徒の意欲を喚起し、社会で役立つ力を実感するのに有効である。

<授業実践>

実践 1

1 単元名 「修学旅行新聞を作る～修学旅行での感動を家族に伝える～」(第3学年・1学期)

2 本単元及び本時について

本単元は、家族に向けて、修学旅行の感動や楽しさを伝える修学旅行新聞を作成し、完成した新聞を家族に評価してもらうという実の場を設定する。その際、説得力を持たせるためには、写真や図、パンフレットなどを新聞記事の中で活用することが重要であることを学ぶ。さらに、最終的には家族からの評価により、身に付けた力が役に立ったことを実感させ、達成感を味わわせる。

本時は全7時間計画の3時間目に当たり、修学旅行での感動やハプニングを文章で表し、どんなところに図や写真を入れると読み手に分かりやすく説得力のある文章になるのかを交流し、自分の記事に生かすことで、社会で役立つ言語能力の一つである、説得力を持たせるために資料を活用する能力を身に付けることをねらいとした。

3 授業の実際

分かりやすさの追究(説得力)

○ 200文字の原稿用紙に修学旅行の感動やハプニングを書く(図1)。



図1 書いている様子

班別行動で伏見稻荷に行きました。(中略)一番上に行くと「おもかる石」というものがありました。願い事を祈念した後、石を持ち上げた時、軽く感じたら願いが叶い、重く感じたら叶わないというものです。私は「これからも家族が楽しく幸せに暮らせますように」と願い事をし、石を持ち上げました。すると……。

○ どのところに図や写真を入れたらいいのか考える。

T : どのところで図や写真を使うと家族に分かりやすく伝えられるかな？

S 1 : 家族があまり見たことのないものを説明する時、写真を使うとイメージがわくと思います。

S 2 : 班別行動で訪れた場所や時間など図や表で表すと一目で分かると思います。

S 3 : 事前学習で調べた広島の被爆地などを地図で載せるのも良いと思います。

○ 記事を読み合い、図や写真を入れる所をアドバイスする。

S 1 : 東大寺の大きさに驚いたことが書かれているから、その大きさが伝わるように、何か身近な建物と比較するような図を入れれば良いんじゃない。

S 2 : 北野天満宮で絵馬にどんなことを書いたか、写真か図で説明すると分かりやすいよ。

S 3 : 班別行動で行ったお寺や神社が京都のどの辺りなのか、地図で表せると良いと思うよ。

生徒は、しおりを見ながら修学旅行中の出来事を思い出し、200文字程度の記事を集中して意欲的に書くことができた。どのような図や写真を活用すればいいのか交流を行う中で、自分の文章のどこに図を入れれば良いか悩んでいた生徒も、友だちからのアドバイスを心得て書き進めることができた。その後、紙面のレイアウトを考え、清書を行い修学旅行新聞は完成に至った。完成した新聞は廊下に掲示し、お互いの作品を見合う期間を作った後、家庭に持ち帰り、「修学旅行新聞評価シート」に家庭からの評価をもらった。生徒は完成した修学旅行新聞を誇らしげに眺め、また、友だちの新聞も興味を持って見ていた。生徒にとって実際に体験してきたことを新聞にまとめ、形に残す活動は楽しかったようであり、また、達成感も感じられたようであった。

評価者からのフィードバック（家族）

＜完成した修学旅行新聞と家族に評価してもらった修学旅行新聞評価シートの実際＞

修学旅行新聞評価シート

組 番 氏名

① 面白かった記事・上手に書いた記事はどれですか？
その理由（小見出し）とその理由をお書きください。

面白かった記事・上手に書いた記事
理由

② 修学旅行新聞を読んだ感想や我が子へのメッセージをお願いします。

● 一生に一度の修学旅行は楽しいおみやげだけでした。本人からの話でも伝わりましたが、この新聞からも十分伝わりました。（中略）記事の一つ一つを読むと「うん、うん」とうなずきながら思い出を共感できました。

● 文字で伝えるにくい部分が、写真を上手に使い表現されていました。新聞を作る難しさではなく、文章を的確に伝える面白さに触れることができた記事だと感じました。

＜評価1＞
図や写真、資料を使って分かりやすく説明できていますか？

＜評価2＞
修学旅行で学んだことの感動や楽しさが伝わってきましたか？

図や写真の活用で分かりやすく

小見出しでインパクト

意欲の向上

完成した「修学旅行新聞」を1学期終業式の日を持ち帰らせ、5日後の登校日に新聞と共に「修学旅行新聞評価シート」を回収した。生徒は照れながらも友だちと「評価シート」を見せ合い、家族からのフィードバックがあったことを喜んでた。また、家族からのメッセージを大切に読んでいる姿も見られた。

4 考察

家族に向けて、修学旅行の感動や楽しさを伝える修学旅行新聞を作成し、家族に評価してもらうという実の場を設定したことで、生徒は楽しそうに意欲を持って学習に取り組んだ。また、説得力を持たせるためには、写真や図、パンフレット等の資料を活用することが重要であることを学んだことにより、例年とは違う、相手意識と目的意識を明確にした修学旅行新聞を作り上げることができた。「修学旅行新聞評価シート」に家族から、温かく評価してもらうことで身に付けた力を実感することができたが、身近な家族に向けて書いたので、叙述の仕方や説明の仕方の丁寧さに課題が残った。そこで、実践2では、更に社会生活を意識し、相手を生徒にとって近い家族から、もう少し離れた大人、「藤岡市の職員」と設定した。

実践 2

1 単元名 「藤岡市を元気にするプロジェクトを提案しよう！！」

～構成の工夫や資料を活用した説得力ある発表を通して～（第3学年・2学期）

2 本単元及び本時について

本単元では藤岡市役所職員に向けて、藤岡市の観光スポットである「ららん藤岡」「高山社」「蚕マラソン」での「おもてなし」のアイデアを考え、藤岡市が元気になる提案をプレゼンテーションで発表し、市役所職員に評価してもらうという実の場を設定した。その際、説得力を持たせるためには、図や写真、表などを活用し、構成を工夫することが重要であることを学ぶ。さらに、最終的には藤岡市役所職員を学校に招き、プレゼンテーションを行い評価していただくことにより、身に付けた力が社会で役に立ったことを実感させる。本時は全9時間計画の4時間目に当たり、プレゼンテーションの構成を考える活動を通して、社会で役立つ言語能力の一つである、構成を工夫する力を身に付けることをねらいとした。

3 授業の実際

分かりやすさの追究（説得力）

＜モデルプレゼンテーションの構成を比較検討＞

○ゆるキャラグランプリで「まゆだーまん」の順位（人気）を上げるための提案を考える。

T：説得力あるプレゼンテーションにするために、皆なら6枚の資料をどの順番に提示しますか？

<p>A：ふなっしーの写真</p> 	<p>良い点</p> <p>☆「ららん藤岡」利用客に「まゆだーまん」をアピール！！ ☆誰でも「まゆだーまん」と真似られ合える！！ ☆「ららん藤岡」に「まゆだーまん」めあてに家族連れが来ます！！ ☆「ららん藤岡」のお店にも更にうるおいがうまれる！！</p> <p>B：良い点（根拠）</p>	<p>C：ららん藤岡の写真</p> 	<p>ゆるキャラグランプリ2014 第740位</p>  <p>D：まゆだーまんの写真</p>	<p>E：提案</p> <p>提案</p> <p>まゆだーまん</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎週日曜日 ・10時～11時 ・ららん藤岡のステージに登場!! 	 <p>F：道の駅ランキング</p> <p>ららん藤岡 1年間の集客数 183万人</p>
---	---	---	---	---	---

○グループ内で一人一人が考えた構成を発表し、グループの構成案を作成する。

S 1：E→B→F→C→D→A

まず提案をして良い点をアピールし、なぜそんな良いところがあるかを説明する順番がいいと思いました。

S 2：A→D→C→F→E→B

まずゆるキャラ、そしてららん藤岡を出し、2つを関連させた提案をすることで説得力が出る。

○構成した理由を発表する（図2）。

T：なぜ提案を先にするのかな？

S 1：提案を先にするので、これから話す内容を相手に予測させて、分かりやすくするためです。

T：なぜ、「ふなっしー」と「まゆだーまん」を並べるの？

S 2：人気のある「ふなっしー」と人気のない「まゆだーまん」を比較することで、「まゆだーまん」の今の人気を明らかにし、現状の厳しさを伝えるためです。

T：なぜ初めに「道の駅ランキング」の表を持ってくるのかな？

S 3：初めに「ららん藤岡」の1年間の集客数 183万人という数字を見せることで、聞いている人にインパクトを与えて、興味を持たせるためです。

T：なぜ、「ふなっしー」の写真を最後に持ってくるの？

S 4：「まゆだーまん」が最後にこうなったらいいという最終目標を示すためです。



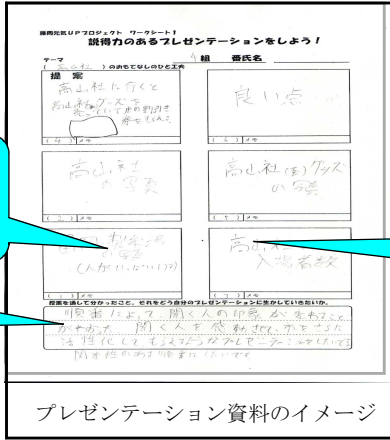
図2 理由を説明する様子

○並べ替えで気付いたことを自分のプレゼンテーションに生かす。

比較

1番目に富岡製糸場に
たくさんの観光客が訪れ
ている写真。

2番目に高山社の閑散
としている写真。



プレゼンテーション資料のイメージ

尾括型

最後に提案
高山社に行くと高山社グッズ
が無料でもらえる

1年間の高山社
の入場者数

インパクト

○本時の学習を振り返り、まとめる。

T：授業を通して分かったこと、それをどう自分のプレゼンテーションに生かしていきたいですか？

S1：具体的な数字を出して、より詳しく説明することは聞き手にインパクトを与える。また、最終目標を示すことで説得力を感じさせる。このようなことを自分のプレゼンテーションに生かしたい。

S2：はじめにインパクトのあるものを持ってきて、聞き手に興味を持ってもらうというやり方と他との比較をするというやり方は真似したいと思いました。聞き手を飽きさせないようにすることが大切だと思いました。

評価者からのフィードバック（藤岡市の職員）





図3 市の職員の前で発表

プレゼンの基本がしっかりとできていました。先進地の事例も取り入れていて説得力がありました。みな実現可能な提案で非常に良かったです。

緊張したけど、発表してすごく楽しかった。

素晴らしいアイデアがたくさんあり感動しました。皆さんの何気ない意見の中から、藤岡市に来訪する方が喜んでいただけるものがきっと生まれてくると思います。失敗やできないことを恐れず、たくさんのアイデアを出して、藤岡市がもっと元気になるよう、これからも皆さんの力を貸して下さい。

図4 市の職員からの講評



まとめを行い、その後の感想には「内容を分かりやすく簡潔に話すということは発表の時だけではなく、何かを説明する時などにも使えるので、これらのことを意識していきたい」とあり、今回、身に付けた力が社会生活で使えるという実感を持つことができた。また「今回行った学習で、藤岡が良くなったら私たちも一部貢献できたと言えるので、藤岡市の役に立てたら良いです」という学習に対する達成感を感じられた感想も見られた。

4 考察

藤岡市役所職員に向けて、藤岡市が元気になる提案をプレゼンテーションし、評価していただくという実の場を設定したことで、生徒は意欲的に学習に取り組んでいた（図3）。また、モデルプレゼンテーションを使った活動や全体で深め合う活動を通して、聞き手を意識したプレゼンテーションの構成を工夫することが、説得力を持たせるためには必要であることに気付くことができた。さらに、最終的には藤岡市役所職員にプレゼンテーションを行い、図4のように評価をいただいたことにより、身に付けた力が役に立ったことを実感することができた。